



2002-2003年度のための

地区協議会 クラブ奉仕部門

2002年4月27日(土) テクスピア大阪

1. 開会の挨拶

DGE 小島 哲



本日は絶好のゴルフ日和にもかかわらず、地区協議会にご出席いただきありがとうございます。今回はこの泉大津で開催させていただいております。

和歌山から南の皆様には大変ご不便をおかけしますが、いずれ串本、那智勝浦、新宮からガバナーが出られましたら、喜んで馳せ参じますのでお許しいただきたいと思っております。後程、次年度の活動方針をご報告申し上げますのでよろしくお願い致します。

2. 基調講演

PDG 水田 博史

こんにちは。地区協議会にご出席いただきありがとうございます。前田ガバナーは、本日2650地区の地区大会に出席のため欠席しております。ガバナーの代理としてではなく、直前ガバナーとして思うところをお話します。

ロータリーはRIでも、地区でも、またクラブでも過去の積み上げにより、複雑化しています。また、最近のRIでは地区リーダーシッププラン(DLP)や新モデル試験的プロジェクト(定款・細則にこだわらないクラブ運営)などの採用、会員増強などを強調しています。これらは、世界の動きを考えた上で、可否を判断しなければならないと思っております。

次年度のRI会長のラタクルさんはクラブの活動を充実するという観点から、トップダウンで

はなく、ボトムアップの活動を提唱されています。ロータリーの活動の核心は、クラブの活動、クラブの中でもロータリアン一人一人の活動です。地区やRIの理事、会長でもありません。クラブおよび会員の皆様の活動がこれからのロータリーの発展の原動力であり、大切なことです。

クラブの活動が中心であるという観点に立って、地区の組織編成などの簡素化を目指し、小島ガバナー・エレクトはいろいろと考えています。一例が、地区の委員会をクラブ主導型の委員会と地区主導型の委員会に明確に区分したことです。クラブ主導型の委員会は、四大奉仕部門を中心に各クラブが主体的に活動していただき、地区はその活動についてサポートなり、援助なりをする立場になります。地区主導型の委員会は地区が主体

的に動かなければならない活動を行ないます(情報規定、財務、財団、米山など)。

クラブ奉仕部門はクラブの基盤を充実させて、あらゆる奉仕活動に活力を生み出すクラブの基本にかかわる大切な部門です。一番は会員増強ですが、さらに、ロータリーのイメージを高揚させることを考えていただきたい。とくに広報についてです。クラブの活動を地域の中で活発にすることにより、地域の人にロータリーを認知してもらう必要があります。このことが今日のロータリーで一番大切なことです。また、会員増強にも効果的であると思います。

私をはじめ、会員がもっとロータリーのことを勉強する必要があります。各クラブでフォーラムなどロータリーについて語り合う機会をつくっていただきたい。ロータリーを知るためには、ロータリーの友や月信を読んでください。ロータリーの友を購読することは、ロータリアンの義務のひとつです。ロータリーの友には、R Iや各クラブの素晴らしい情報が載っています。

月信は次年度からホームページに掲載するようになります。私は月信のホームページ化について賛意を表しました。私の年度は苦勞して月信を印刷し、全員に配布しましたが、あまり読んでいただけていないので疑問を感じていました。ホー

ムページ化すれば、少なくとも会長さん、幹事さんには読んでいただけたと思うからです。経費的にも月信を印刷する費用の2～3割程度になり(印刷すると1,000万程度かかります)、会員減少により逼迫している地区の財政運営にも大きく貢献できると思います。

O A化委員会のこの3年間の努力で、ほぼすべてのクラブにコンピューターが導入できました。これからのO A化委員会は、いかに効果的にコンピューターを各クラブで活用、利用するかについて検討をお願いします。

奉仕と親睦はロータリーの両輪です。これもクラブ奉仕部門の担当です。また、プログラム委員会についても、以下の点をお願いしたいと思います。プログラム委員会は年度当初に卓話などの計画を作成すれば終わりということではなく、クラブの奉仕プログラムにも積極的の関与し、クラブの活動を推進していただきたいと思います。

最後に、いろいろ申しましたが、クラブ奉仕部門の皆さんには、クラブの基盤作りにもやる気になって取り組んでいただきたいと思います。よろしくをお願いします。

3.次年度の活動方針

D G E 小島 哲

最初に自己紹介をさせていただきます。クラブの副会長さん、クラブ奉仕担当理事さんとお会いするのは今日が最初で最後です。この次お会いできるのは、公式訪問の時になると思います。私は昭和8年の生まれで、68才です。小学校6年生のときに第2次世界大戦が終わりました。旧制中学の最後で、高校2年生になるまでの4年間新入生がなく、ずっと下級生でした。大学は理工科系でして、卒業してから5年ほど飛行機会社に勤めました。その後退職して、今の会社に入りました。今の会社はいろいろな工場でお使いいただく薬剤を造っている小さい化学系の会社です。ロータリー歴は25年になります。1年間よろしくをお願いします。

2640地区は、外から見ると、非常に優れた活動の活発な地区と認識されています。財団、米山、青少年交換、W C Sなど高い評価をいただいています。このような活動が評価を受けていることは、地区の委員の皆さんは充分認識されています。しかし、クラブや一般の会員の皆様には、そのような意識が届いているかということに、私は疑問を持っています。例えば、W C S(世界社会奉仕)ではファンドに2,000円を地区にいただいています。地区がその資金をもとにいろいろ有益な奉仕活動をして、何をしたかということも気にも留めないのが現状ではないでしょうか。やはり奉仕活動というのはクラブですていただく必要があ

ります。地区の委員会の活動にクラブの皆様が協力するというスタイルはダメで、私はクラブ主体の奉仕活動に力を入れたいと思っています。

識字率運動で、書き損じはがき、古切手やテレホンカードを集めていたことは、皆さんも覚えておられたでしょう。しかし、それがどのように換金され、どこの国で、何ができたかまで、ご存知の方はほとんどいないでしょう。皆さんに寄付していただいてお金などは、何にどのように使われ、その結果はどうだったか、満足のいく結果ができたかなどを、皆さんに知って欲しい。その結果、もう一度活動しようというようにならないと、本物ではないと思います。

今年の国際協議会で、ラタクルR I会長エレクトは「クラブの活動目標は、R Iなど上から言いません。どうすれば、クラブが活性化するかは、クラブの皆さんがよくご存知でしょう。クラブの計画、目標はクラブでたててください。その計画が達成できたら会長賞を出しましょう。」と話されました。「会員増強も大事ですが、目標はクラブで決めてください。あるクラブは親睦活動に、また他のクラブは老人問題に、国際奉仕に、財団に、米山、その他、どれに力を入れるかは各クラブで考えてください。」と簡単明瞭にお話されています。その分、私たちの責任も重くなります。

私も各クラブには特に何も言いません。啓発活動はしますが、目標は各クラブで考えていただきたい。会長エレクトにアンケートをとった結果、増強について、平均5%台のお答えをいただきました。財団、米山などについても例年と同じような結果でした。

ラタクルR I会長エレクトは、クラブが目標を決め活動してくださいといっていますが、特に大事な点を4つあげています。

一つ目は、会員増強です。ぜひお願いしたいと思います。当地区でも会員数が最も多かった年度に比べると、現在は約700人近く減少しています。仮に600人減ると、地区の分担金が約840万円(14,000円×600人)目減りする計算になります。月信をホームページ化する主目的は経費の削減です。月信を印刷して全会員に配布すると約1000万円かかります。ホームページ化した場合の費用は約200万円程度と予想しています。差し引き800万円程度になりますが、これではほぼ会員減少による地区資金の減収分と相殺と考えていま

す。

会員増強以上に大事なことは退会防止です。新しい会員さんをはじめ、会員の皆さんがロータリーに入会して良かったと思っていただけるようにしていただきたい。親睦と奉仕はロータリーの両輪ですが、例会が楽しいクラブでないと、その他の奉仕活動もうまく実行できません。大変難しいことですが、入会して良かったと、また古い会員さんもロータリーは楽しいと感じてロータリアンとして生活してほしい。

二つ目は識字率の向上です。タイの識字率は約65%です。字の読めない人の7~8割は女性です。ラタクルさんはタイを中心として地域で、識字率向上運動をしています。徐々に効果が出てきています。ぜひ応援してほしいと言っています。地区の社会奉仕委員会でも取り上げる予定です。今回はクラブに協力いただいた経過や結果を報告し、協力して良かったと感じていただけるように計画します。賛同いただけるクラブは協力をお願いします。

三つ目はポリオの問題です。ポリオ撲滅は15~16年前から始まったロータリーの100周年記念事業です。15~16年前は年間に全世界で50万人程度の子供が発病していました。昨年は450~460件の発病で、あと一步のところまでできています。撲滅宣言には、発病がゼロになり、かつその後1年間発病がなかったことを確認する必要があります。昨年ユニセフ、WHO、ロータリーが相談した結果、来年の9月にはポリオの発病をゼロにしないと、ロータリーの100周年に間に合わないこと、そのための資金4億ドルが足りないことがわかりました。資金の調達方法は、例えばロータリーが1,000ドル出すと、それと同額(1,000ドル)をビルゲイツ財団が出してくれます。その合計額(2,000ドル)に世界銀行が150%(3,000ドル)加算してくれます。したがって、ロータリーが1,000ドル出すと、その5倍の5,000ドルが集まる計算になります。しかし、目標が4億ドルですから、1/5といっても、ロータリーは8,000万ドルを集めねばなりません。8,000万ドルを全ロータリアンに割り付けると、1人当たり67ドルです。GNPなどの関係で、日本のロータリアンには倍の1人当たり135~140ドルの要請がきています。せっかく15年程度かけて、あと一步のところまでできています。ここで止めると、いままで努力が元の

木阿弥になってしまいます。次期会長、次期幹事、また財団部門でもお話ししますが、当地区のロータリアン1人当たり220ドルの寄付をお願いします。その内140ドルまではポリオプラスに対する用途指定寄付として出して欲しい。残りの80ドルは例年どおり一般寄付としてお願いしたい。こうすると何が違うかということ、3年先の当地区から送り出す奨学生の人数が半分以上になることです。姑息なやり方ですが、今年、来年、再来年と奨学生の人数を少しずつ減らし、その減らした分を3年先に充当すればどうかと考えています。また、次期会長にお願いしたアンケート結果では、今年の財団の寄付は平均200ドルとなっていますので、あと1割増やしていただきたいとお願いしています。何とかロータリーの100周年記念事業を完結したいと思います。最後の踏ん張りです。ご協力をお願いします。

四つ目は職業奉仕です。具体的には、各クラブでの職業分類の見直しです。新たな職業を発掘し調査して、会員に勧誘してください。また、今回同一職業で5名まで会員が認められ、職業の細分

化の必要がなくなると思います。そのような点もふまえて職業分類の見直しをしてください。

OA化については、ホームページ(月信など)やE-メール(クラブへの連絡など)をフルに使っていきます。7月から全面的に切り替えますが、まだ数クラブがE-メールアドレスを持っていません。是非、できるだけ早い時期に取得していただき、7月から使用できる体制をお願いしたい。ホームページの閲覧や月信のプリントアウトなど、クラブの事務職員の仕事が多少増えますが、ご協力をお願いします。少なくとも数百万円の節約ができます。現段階では約束はできませんが、後半の地区分担金を1人当たり1,000円程度安くできないかと考えております。

一番大事なことは、社会奉仕や青少年交換で地区が用意し、クラブにお願いするのではなく、クラブから良いことだから是非やりたいという声があって、初めて地区の活動としていけると思っています。この観点から、米山、青少年交換およびWCSについて方法を苦慮しています。

4. 会員維持・増強について (会員の維持・増強は自らのクラブで、自らの手で！)

P D G 亀岡 弘

今年度のキング会長はトップダウンですが、次年度のラタクル会長はボトムアップです。過去10年間、ロータリーの会員は減少しています。キング会長はGlobal Questを開発しましたが、拡大も増強もうまくいっていません。

会員の増強状況

昨年1年間で、会員は世界では7,242名の増となっていますが、日本では逆に4,231名のマイナスになっています。過去、日本では最高13万人弱の会員がいましたが、昨年は約11万4,000人まで減少しています。世界では、1997年に約121万人でしたが、2000年には約118万人まで減少しました。しかし、2001年には増加しています。日本の4つのゾーンでは、この2月～3月末の増強結果を見ると我が3ゾーンだけがマイナスとなっています。

1993年6月30日～2001年6月30日までの8年間の会員数等の状況は、世界では会員が14,934名増

加、拡大が3,620クラブ、消滅クラブが102です。これに対し、日本では会員が8,666名の減、拡大が217クラブ、消滅がゼロです。

日本の場合、2001年6月30日の会員数と7月1日の会員数とでは1,660名の差があります。このような不明瞭なことを解決するため、6月30日に退会届の出たものは必ず6月中旬に処理してください。また、7月1日に入会した場合は、RIの人頭分担金に入れないようにしてください。入れてしまうと、会員増強の数に入りません。

新会員の退会状況をRIが予測しています。これによると、日本では1年後に10%、3年後に49%となっています。インドでは、1年後に22%、3年後に50%という数字がでています。ドイツ、ノルウェー、フランス以外の国では、3年後に新会員の半分が退会すると予想しています。

退会の理由は、転勤、退職、死亡などいろいろ

ありますが、要するにロータリーに魅力が感じられないというのが主たる理由です。効果的な会員維持ということでは、ロータリアンの意識改革が必要です。例会出席率の向上、職業上のモラルの向上などです。例会は親睦の場、人生道場として楽しい場でなくてはなりません。例会が重荷に感じるようではダメです。ロータリーに入って良かったと感じてください。また、ロータリアンとしてのプライドを持ってください。

会員維持の効果的方法として、最新のロータリー情報を知識として、会員に伝達して欲しい。とくに新入会員にお願いします。その知識をロータリー活動のための知恵に変え活用してください。ロータリーの内容を理解すると、ロータリーが楽しくなります。ロータリーを楽しんでいる人に例会で話をしてもらってください。例会への出席が基本です。

奉仕は金銭を出すことではなく、頭を使い、体を使うことを力説してください。青少年交換や米山のカウンセラーやお世話をしていただくと、ロータリーが面白くなります。やった仕事、奉仕にクラブで評価をしてください。自分自身のアイデアを出してください。

Global Quest キャンペーンはラタクル次期会長が引き継ぎますが、トップダウンではなくボトムアップですということ。次年度ははクラブが目標をたてるということで、平均で5.4%ということでした。ラタクル会長年度は、地区内で最も高い増強率を示したクラブ、最も多くの新会

員を獲得したクラブ、新クラブを提唱したクラブを表彰します。つまりクラブ自身が増強・拡大をしてくださいということです。

効果的な増強方法は、会員増強委員を置く(次年度は置かない)、会員が年間必ず1人推薦する、理想の会員像を明確にする、魅力ある例会(経験豊富なS A Aを選ぶなど)などがあります。

ボトムアップでクラブの改善をお願いしたい。会員増強・維持にはクラブ奉仕委員長がクラブ会長を補佐することが最重要です。

- 1 とくに会員増強委員長は、会員数の目標設定にあたりクラブ会長の片腕となる。
- 2 年度最初のクラブ会合において、本目標をクラブ全体と確認しクラブ会員と分かち合う。
- 3 クラブ会長、クラブ奉仕委員会、職業分類委員会を中心に、会員増強、会員維持について、毎週忌憚のない意見交換を行なう。
- 4 クラブ奉仕委員会は、会員教育のための戦略、会員を維持するための戦略を構築すること。
- 5 クラブ会員に感動をあたえるようなプログラムを立案してください。
- 6 クラブ会員から盛り上がる力を醸し出す雰囲気を感じさせる環境作りが大切です。

ロータリアンはあなたの友人です。新会員とロータリー精神を分かち合いましょ。慈愛の種を播きましょ。

5. クラブ奉仕活動に反映して戴きたい地区運営の指針

P D G 中村 幸吉

クラブ奉仕活動はロータリークラブにおけるクラブの肝心要の物です。年間の奉仕活動の全てを取り仕切ってくれるのがクラブ奉仕部門です。まず、会長・幹事が何をしようとしているのか、ロータリークラブは如何にあるべきかを主眼に考えて協力して欲しい。会長にお渡ししてある委員長要覧をよく読まれ、これを守っていただければクラブの運営は万全です。R I で工夫してくれている一年間の方針を基本にし、次年度の地区運営の改革の中身を掴んで、奉仕活動に生かしてほ

しい。

地区運営の改革については地区リーダーシップ・プランを採択、実施します。今年度はその試行期間でしたが、中心はガバナー補佐で、充分機能しています。このプランをエレクト自ら成文化しました。公式訪問が合同例会、I M を利用した公式訪問など多様化しますのでご協力をお願いします。また、地区組織の抜本的改革がされます。

様々な奉仕活動において、地区主導ではなく各クラブ主体の奉仕活動をしてください。地区はそ

の応援をさせていただきます。このための地区委員長に新しい人が指名されていますので経過を見ていただきたい。地区協議会もガバナーが「FACE TO FACE」で委員長方にお会いしたいというのと、地区財政の見直しを考えて8回に分けて実施しています。

規定審議会で採決された制定案は自動的に定

款・細則の改定に生きてきます。まず、会員の構成が変わった。定款が分かりやすくなった。クラブの区域限界がなくなった。クラブ理事会での採択権が広がった。クラブ奉仕活動がクラブの奉仕活動になった(の一字が加わった)。理由のある欠席はクラブの理事会で認められれば出席になるなど改正されました。

6. 各委員長の活動計画発表

会員増強・退会防止委員会

委員長 小川 浩



会員増強・クラブ拡大はロータリーとして常に心掛けねばならない問題です。羽曳野RC、和歌山中RCにはクラブ拡大をお願いしています。

新会員の入会、退会防止では退会防止に力を入れてください。

昨年の11月3日に会長エレクト研修セミナーがありました。その時の会員増強の資料が最後のページに掲載されています。平均5.6%となっています。この目標に向け努力してください。

小島年度は私が委員長でガバナー補佐の皆様が委員さんという構成です。補佐の皆様はそれぞれのクラブの現況を十分に把握していただき、クラブの会長の目標が達成されますようにお助け願います。

広報・雑誌委員会

委員長 川村 克人



地区主導型は広報情報・規定委員会で担当していただき、広報・雑誌委員会ではクラブの自主的な広報活動を行い、地区はそれを支援するようなスタンスでやりたい。

今年度の反省として、GSE、財団、米山にしても世界に誇れる人数なのです。又、ポリオの予防接種に74名もの方がインドに行かれた。これらの事を一般の人々に如何にして知って貰えたかについて反省しています。セントルイス宣言のなかに「ロータリーの影響を強める一手段として、すぐれたクラブの事業計画が見事に成功した場

合、妥当な広報宣伝を行わなければならない」と書かれています。

具体的には、内部広報ではロータリーの友、週報、ウェブ・サイトの活用が大きな課題になると思っています。外部広報ではロータリアンその者が重要な広報の媒体であり、職業倫理基準を正し

て職業奉仕に励む姿こそ基本であり、広報の王道です。報道メディアの活動を中心に考えながら、クラブの自主活動を推進していただくと共に、クラブが動きやすいような支援を考えながらサポートして行きたいと思っています。

地区主導の広報・情報規定委員会

委員長 上野山 英樹



DLPが本格的に動きだします。川村さんと私どもでリンクしながら活動して行かなければならないと思っています。

2001年の規定審議会に基づくクラブ定款・細則の改正、手続要覧についても色々な議論が沸騰すると思います。これらの情報の提供と交換をさせていただきたいと思っています。クラブ定款・細則を改正していただくことになりますから、その進捗状況を確認させていただきますし、それに対する情報提供の手助けがあれば私どもでさせていた

だきます。

2004年に規定審議会があります。01年度に中村研修リーダーが代議員で出られたときは地区から立法案を1件持って行かれました。クラブでも岸和田RCを中心に5件の立法案を出しましたが、地区としてもう一度それらを検討し2004年に向けて準備をしたいと思っています。各クラブにおきましても、出来るだけ多くの改正のための立法案を出していただきたい。

二つの柱が情報規定委員会の仕事になると思います。広報のほうは川村さんと連絡を取りながら、私どもは対外広報とクラブ内を繋ぐような広報をやりたいと考えています。

(小島ガバナー・エレクト補足説明)

広報関連では川村さんと上野山さんのコンビでやっていただくこととなります。次年度のIMでは事前会議に広報部門を付けていただきましたので、しかるべき広報の委員長がクラブ奉仕担当の理事さんがIMの事前会議に出席していただきまして、色々な情報交換をしたいと思っています。

7. 質疑応答

Q：海南RCの門脇さん

四大奉仕部門の一つですが、クラブ奉仕とは一体何ですか？

A：水田PDG

クラブ奉仕はクラブの管理面について成功させることが、クラブ奉仕の目指す道だと思

います。抽象的ですが、ロータリー活動の基盤確立の役をすることだと思えます。そのことによりクラブの活動が活性化すると思うし、大きな成果をあげられると思います。

A：中村研修リーダー

手続要覧の261ページに「クラブ奉仕委員会

委員長はクラブ奉仕の諸活動全部について責任を持ち、且つクラブ奉仕の各特定分野について設置されたあらゆる委員会の仕事を監督、調整する任務を持つものとなっております。

Q：和歌山東南RCの青木さん

中村PDGにお聞きします。公式訪問の多様化と云うところで、IMにおける公式訪問について、もう一度ご説明ください。

A：小島ガバナー・エレクト

公式訪問のすぐ後でIMをやられてもよいということ。公式訪問 IMの順です。

A：中村研修リーダー

公式訪問でガバナーがなすべきことは三つあります。一つはRIの会長の意向を伝える義務と責任です。二つ目はガバナー自身の意向を伝えることです。三つ目はクラブの状況を提供してもらい、この部分はこうしたら如何ですか、と言う意見を述べることです。会長・幹事の懇談会、クラブ協議会はガバナー補佐にお願いし、例会におけるガバナー・アドレスはなるべく多くのロータリアンにするのが望ましい。

IM6組と7組はIMと公式訪問を同日に行います。

Q：羽曳野RCの黒川さん

公式訪問とIMを合同とするのでは、ガバナー補佐の必要がないのでは？

A：小島ガバナー・エレクト

ガバナーがクラブの方と直接お会いできるのは公式訪問だけです。ガバナー補佐はクラブアッセンブリーにも出られます。その報告はガバナーの所にきますので、その結果を見まして、各クラブの会長・幹事懇談会の席で色々な意見の交換をさせていただきます。ガバナーがクラブに直接タッチする機会は減りますが、ガバナー補佐の皆様の仕事は増えます。補佐の方にはガバナーの仕事の一部をお願いして、それ以外の地区の仕事にガバナーが専心できるようにします。この一年間の試行期間ではこの方法は比較的評判がよく、ガバナー補佐さんの方が話しやすいと言う結果が出ています。

A：水田PDG

IMの時に公式訪問をされるか否かはクラブでご相談して下さい。私がガバナーの時は各クラブを訪問しました。それにより得られたことも多々ありまして、私のロータリー・ライフは豊かになりました。しかし、私もDLPは前進さすべきだと思っています。

A：中村研修リーダー

次年度はIMと公式訪問をやってみようと言うことになりました。一年施行してみて、何らかの弊害が出るようなら、その次の年から改めれば良いと思っています。

A：小島ガバナー・エレクト

仕事が現役の人がガバナーになるのは難しい。今回、合同例会で回数が減るからガバナーを受諾しました。全クラブ公式訪問ならガバナーを引き受けられなかったと思います。ガバナーを受けやすい環境を作ってほしい。もう一つ逃げ口上になるかもしれませんが、私がやってダメなら、次の前窪ガバナー・ノミニーから変えればよいことです。少し開き直った様な型で自由にさせていただきます。

Q：藤井寺しゅらRCの椿本さん

外部広報の強化は非常にありがたいことです。ポリオ撲滅の報道にロータリーの貢献は少しも報道されない。社会的にもっと知っていただくことが必要だと思います。

A：小島ガバナー・エレクト

ポリオ撲滅は、もともとフィリピンのRCで最初の奉仕活動が行われて、大きくなった。所謂草の根の奉仕活動そのもので、これにRIが参加し、WHO、ユニセフが参加し、さらに各国が参加して現在に至っております。この運動に火をつけたのはロータリーですが正直なところ、金銭面でも、労働力の面でもロータリーの役割は非常に少ないのです。WHO、ユニセフの活躍に焦点を当てたほうがメディアとしては報道しやすい面もあるのでしょうか。

外部広報について

自分のクラブが何をしているのか、近隣のクラブが何をしているのか、2640地区としてどんなことをしているのか、RIとして何をしているのかなどを知っていただき、会員の皆

様に伝えていただくことをお願いします。会員一人一人が自分たちの行っている奉仕活動を理解し、口コミで結構ですから我々のク

ラブはこんなことをしていますよと宣伝してほしい。

8. 講評

P D G 水田 博史

今日の地区協の雰囲気は非常に良かった。エレクトの個性が発揮されたもので、この様な中から議論を深め、理解を深め、また知識を深めロータリーは発展して行くと思います。その意味でこの

会合の意義を頭に入れていただき、クラブで次年度の成功のために頑張ってくださいと思います。